

英語「ラウンドシステム」の考え方を全学年、全教科で実施

本市では、一般的な学力調査によって測定できる、いわゆる「知力」だけを学力とは捉えていません。思いやりなどの「徳力」や、走力や投力などの「体力」も、広い意味での学力であり、「知・徳・体」のバランスのとれた力、これを学力と捉えています。



「授業中こそ子どもと向き合う時間」という考えのもと、誰にでもわかる授業をし、確かな学力を付けます。そして、子どもと先生、子ども同士がかまい合う、向かい合う授業(主体的・対話的で深い学び)を実践します。(ラウンドシステムの考え方)



「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム・マネジメントにより、教科横断的な学びを充実し「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」、いわゆる汎用的能力を育成します。(くまがやラグビー・オリパラプロジェクト等)



市内全ての小・中学生を対象とし、教員OBや教員免許状所有者、学生等による、児童生徒一人一人に対するきめ細やかな指導を行うことで、確かな学力の向上を図ります。(くまなびスクール)

子供が自信を持って自己表現できる授業へ ～10のポイント～

アクティブ・ラーニング

ポイント1
「笑顔」

ポイント2
「対話」

ポイント3
「我慢」

すすめの学校
「むちをふりふり
チイパッパ」

めだかの学校
「誰が生徒か
先生か」

ポイント4
「気付き」

ポイント6
「漆塗」

ポイント5
「共有」

ポイント7
「量→質」

ポイント8
「タイミング」

ポイント9
「仕込」

ポイント10
「教科書」

いかに子供を「かまうか」